

とうじひやくごうもんじょ
東寺百合文書に記録が遺る中世の「塩の荘園」



ゆげじまのしょういせき
弓削島荘遺跡

国指定史跡へ



国の文化審議会は、令和3年6月18日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、愛媛県越智郡上島町に所在の「弓削島荘遺跡」を史跡に指定するよう文部科学大臣に答申しました。

この答申を受けて行われる官報告示を経て、「弓削島荘遺跡」は正式に上島町内で初めての国指定史跡となる予定です。

お問い合わせ先

 上島町教育委員会（教育課） TEL：0897-77-2128

弓削島荘遺跡と構成遺跡



弓削島荘遺跡【愛媛県越智郡上島町】

弓削島荘遺跡は、瀬戸内海の芸予諸島の東端に位置する弓削島とその周辺海域からなる荘園遺跡です。荘園は、平安時代後期から室町時代まで存続し、鎌倉時代の延応元年（1239）からは東寺（教王護国寺、京都市）領となりました。東寺に伝えられた「東寺百合文書」等に関係史料が多く残り、塩を貢納した「塩の荘園」として日本史上よく知られています。



おおたなばし しおはま
1 大田林の塩浜
（上島町弓削久司浦）
○ 浜床が確認された中世の揚浜式塩田跡



とうせんじ
2 東泉寺
（上島町弓削久司浦）
○ 荘園時代に「薬師寺」と呼ばれた鯨方の中心寺院



たかはまはちまんじんじゃ
3 高浜八幡神社
（上島町弓削上弓削）
○ 揚浜式塩田跡が遺る「八幡宮」の後身



がんじょうじ
4 願成寺
（上島町弓削上弓削）
○ 荘園時代からの寺院名を継承する大串方の中心寺院



ゆげじんじゃ
5 弓削神社
（上島町弓削下弓削）
○ 荘内の神祇信仰の中心的役割を果たした「浜途明神」「浜戸宮」の後身



じょうこうじ
6 定光寺
（上島町弓削土生）
○ 重要文化財の観音堂が遺る荘園時代末期の寺院



ひゃっかんじま
7 百貫島とその周辺海域
（上島町弓削百貫）
○ 下地中分絵図にみられる漁業の島



伊予国弓削島荘地頭領家相分差図
（「東寺百合文書」と函153）
京都府立京都学・歴史館
東寺百合文書WEBから

上島町教育委員会が平成28年度から令和2年度にかけて実施した弓削島荘総合調査に基づき、荘園に関わる東泉寺、高浜八幡神社、願成寺、弓削神社、定光寺、揚浜式塩田であったと考えられる大田林の塩浜、及び弓削島の北東に位置し漁業が行われた百貫島とその周辺海域が国指定史跡に指定される予定です。文書にみられる塩浜、寺社などの荘園時代の痕跡が今も遺存しており、中世の荘園の具体的様相を知る上で稀有な事例であるとともに、瀬戸内海における中世の製塩業の実態や、瀬戸内海の海上交通を知る上でも重要な遺跡です。